

神楽通信

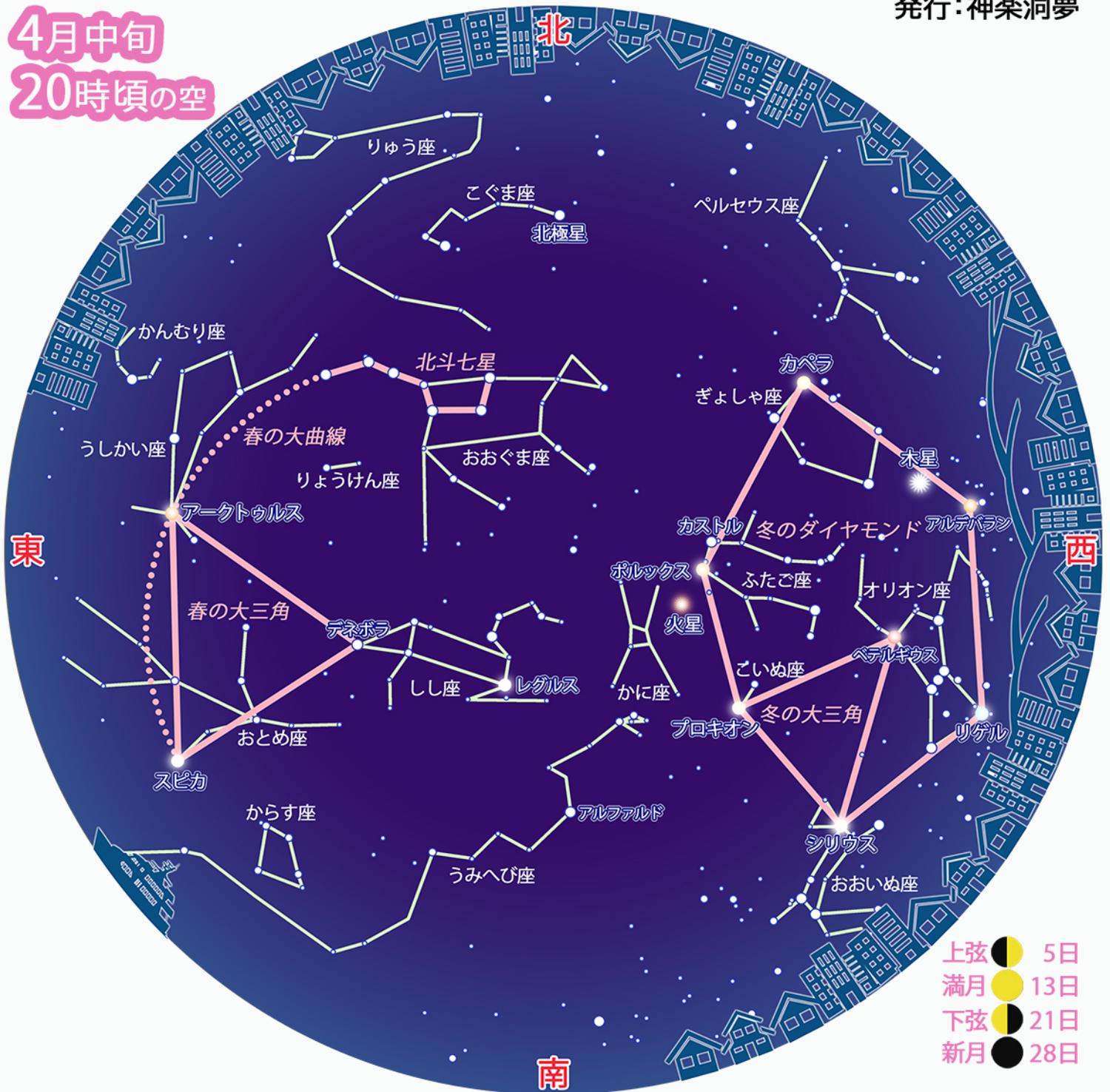
No.110

2025年

4月号

発行:神楽洞夢

4月中旬
20時頃の空



春分を過ぎて、日に日に夜の訪れが遅くなってきています。

「春霞」の時季でも、西の空に傾いた明るい冬の星々や惑星の光はまだ目立ちます。東からは春の星々が続々と上ってきています。頭上には、しし座のレグルスが輝き、北の空高くに結ばれる「北斗七星」から東の空低くに見えるおとめ座のスピカまで大きく延びる「春の大曲線」を結ぶことができます。

北の空に輝く便利(?)な星並び“北斗七星”

春の星空を見上げると、北の空には有名な星並びである「北斗七星」が見えています。北斗七星の「斗」は、水をすくう“ひしゃく”のことを指し、北斗七星は「北(の空)のひしゃくのような七つ星」という意味です。

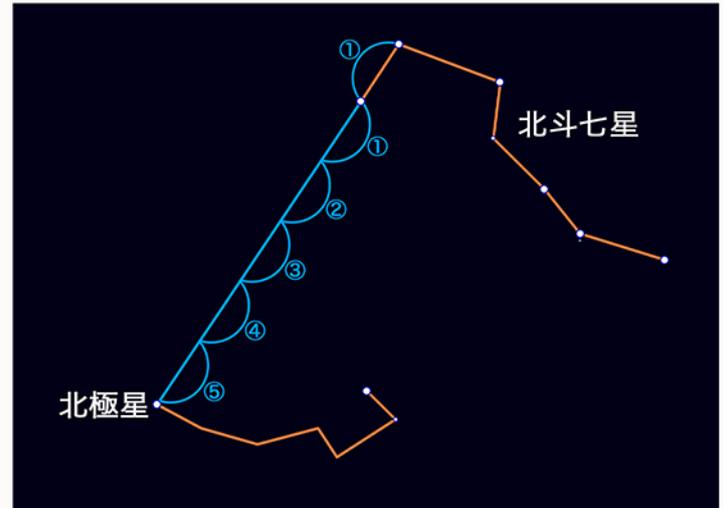
北の空に輝く大きなひしゃくは、北極星を探すための目印にもなります。

ひしゃくの先端の二つの星を結び、結んだ長さの5倍先端方向に延ばすと、その先に真北を示す北極星を見つけることができます。

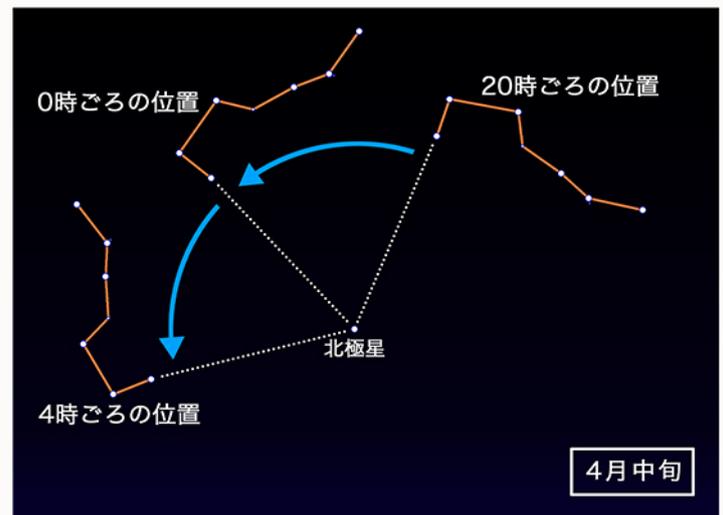
また、北斗七星は「北の大時計」とも呼ばれます。

北極星の周りを1時間に15度ずつ反時計回りに動いていくように見えるため、北斗七星を時計の針に見立てて、動いた角度からおおよその時間を知ることができます。

現代では、時間や方角は機械を使って正確に知ることができますが、昔の人々と同じように自然を利用してみるのも面白いかもしれません。



北斗七星を使った北極星のを見つけ方



北斗七星は夜空に輝く“大時計”

自然の視力検査にチャレンジしてみよう

北斗七星を結ぶ星には、大昔のアラビアの兵士の視力検査に使われた星があります。ひしゃくの柄部分に輝く2等星、ミザールです。

ミザールのすぐ隣には4等星のアルコルという星があり、これらの星々を見分けられるかで検査していたそうです。

暗闇に目が慣れてきた時にチャレンジしてみてはいかがでしょうか。

